

【登録申請書の記載要領】

いしかわ（事業者版／工場・施設版）環境ISO
登録（新規・更新）申請書

令和●●年●●月●●日

公益社団法人
いしかわ環境パートナーシップ県民会議 会長 様

私たちは、いしかわの健全で恵み豊かな環境を保全し、将来世代への継承を図るため、環境にやさしい事業所づくりを目指し、別添の環境行動計画に基づき、全員が協力して環境保全活動を実践していきますので、「いしかわ（事業者版／工場・施設版）環境ISO」の登録を申請します。

事業所又は活動団体

名称 株式会社●●●

代表者 石川 太郎 印

所在地

〒###-#### 石川県●●市■■■

環境保全活動の責任者（担当者）等

所属 ●●部■■課

氏名 石川 次郎

連絡先 電話：●●●-■■■■

FAX：●●●-■■■■

E-mail：####@####.jp

添付資料：別紙のとおり

(別紙) 添付資料の一覧表 (添付した資料の添付欄に○をつけてください。)

資 料 名	要否	チェック欄
環境行動計画書	◎	✓
実績表1 (事業所の概要)	◎	✓
実績表2 (二酸化炭素の排出量)	◎	✓
実績表3 (一般廃棄物の排出量とリサイクル率)	◎※	✓
実績表4 (産業廃棄物の排出量とリサイクル率)	◎※	✓
実績表5 (資源の利用量)	◎	✓
二酸化炭素排出量 可視化シート ※令和8年2月20日改訂で追加	◎	✓
事業者版環境ISO用チェック表	○	✓
工場・施設版環境ISO用チェック表	○	✓
記録表1 (取組状況の確認・評価記録)	●	✓
記録表2 (代表者による評価・見直しの記録)	●	✓
簡易診断シート ※シートを活用した場合に添付してください。		
その他の資料 ()		

- ◎ : 登録(新規)申請書及び登録(更新)申請書に必ず添付してください。
 ※ 産業廃棄物の排出がない場合、「実績表4」の添付は不要です。なお、新規登録の際に一般廃棄物の排出量を把握できていない場合、「実績表3」については、次回更新登録から添付してください。
- : いずれかのチェック表を必ず添付してください。
- : 登録(更新)申請書に必ず添付してください。

<令和8年2月20日の改訂に伴う経過措置>

令和8年2月20日の改訂以後、最初に迎える申請が更新申請で、エネルギー使用量の管理や更新申請の準備を旧申請書様式で行っている場合は、旧申請書様式を用いることができます。

登録番号等(新規の申請時には、記入する必要はありません。)

登録番号：第	号	初回登録年月日：	年	月	日
--------	---	----------	---	---	---

実績表1 事業所の概要

事業所名	
代表者職・氏名	
創立年	年
資本金	
年商（前年度）	
従業員数	人
延床面積	m ²
業種 該当する業種を プルダウンより選択してください。 (最も当てはまるものを1つ)	「その他」を選択した場合は該当する業種を下の欄に記入

黄色の欄に入力してください。

事業活動の規模（2年分の実績を記入）

	原単位		前年度		最新年度	
	項目	単位	令和	年度	令和	年度
①						
②						

※原単位とは、事業所の活動規模を表す代表的な指標のことです。
 実績表2～5において原単位あたりの排出量を計算し、エネルギー効率や利用効率を把握することが可能です。
 ※代表的な原単位として「従業員数」と「売上高」がありますが、それぞれの事業所で自由に指標を記入してください。

黄色の欄に入力してください。

最新年度：今回の申請における評価期間のうち、最新の年度を入力
 （例）更新登録：令和7年度分と令和8年度分の場合、「8」と入力
 新規登録：令和9年度分の場合、「9」と入力

原単位：初期設定 → ① 項目：従業員数 単位：人
 ② 項目：売上高 単位：万円

※ここで入力した指標をもとに実績表2～5において、
 原単位あたりの環境負荷が計算されます。

実績表2 二酸化炭素の排出量

① エネルギー使用量の入力表

使用量		単位	令和 年度										(前年1年間)	
項目	2月		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
購入電力		kWh/月												0.0
燃料	灯油	L/月												0.0
	A重油	L/月												0.0
	都市ガス	m ³ /月												0.0
	LPガス	m ³ /月												0.0
自動車燃料	ガソリン	L/月												0.0
	軽油	L/月												0.0

使用量		単位	令和 年度										(直近1年間)	
項目	2月		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
購入電力		kWh/月												0.0
燃料	灯油	L/月												0.0
	A重油	L/月												0.0
	都市ガス	m ³ /月												0.0
	LPガス	m ³ /月												0.0
自動車燃料	ガソリン	L/月												0.0
	軽油	L/月												0.0

評価期間の開始年月を入力してください

(例) 令和8年4月の場合
 上段に「8」と入力 → 自動で「令和8年」と表記される
 下段に「4」と入力 → 自動で「4月」と表記される

② 二酸化炭素の排出量の出

期間	項目	エネルギー	kg-CO ₂		kg-CO ₂			
購入電力		kWh	0.43		kWh	0.43		
	燃料	灯油	L	2.49		L	2.49	
		A重油	L	2.71		L	2.71	
		都市ガス	m ³	2.14		m ³	2.14	
		LPガス	m ³	3.00		m ³	3.00	
燃料による二酸化炭素排出量			燃料による二酸化炭素排出量					
自動車燃料	ガソリン	L	2.32		L	2.32		
	軽油	L	2.58		L	2.58		
	自動車燃料による二酸化炭素排出量			自動車燃料による二酸化炭素排出量				
二酸化炭素排出量の合計								
活動規模単位当たりの二酸化炭素排出量	原単位① 従業員数		kg-CO ₂ /人		原単位① 従業員数		kg-CO ₂ /人	
	原単位② 売上高		kg-CO ₂ /万円		原単位② 売上高		kg-CO ₂ /万円	
二酸化炭素排出量のエネルギー種別の構成比	購入電力							
	燃料							

**黄色の欄に入力してください。
他の欄は自動計算されます。**

購入電力：事業所が電力会社から受け入れた月ごとの電力量を入力
 燃料：事業所で使用した月ごとの燃料使用量を入力
 自動車燃料：自動車で使用した月ごとの燃料使用量を入力

排出量の把握については、本環境ISOのガイドラインも参考にしてください。

実績表3 事業系一般廃棄物の排出量とリサイクル率

※2年分の実績を記入（新規登録の場合は右側の欄に直近1年分の実績を記入）

※単位は事業所の規模に合わせてご自由に変更ください

期間	令和 年 月～令和 年 月				令和 年 月～令和 年 月				
	① リサイク ル廃棄物	② 焼却又は 埋め立て 廃棄物	③ 合計 (=①+②)	④ リサイク ル率 (=①/③× 100)	① リサイク ル廃棄物	② 焼却又は 埋め立て 廃棄物	③ 合計 (=①+②)	④ リサイク ル率 (=①/③× 100)	
単位	トン	トン	トン	%	トン	トン	トン	%	
紙ごみ			0	0			0	0	
生ごみ			0	0			0	0	
その他の燃やすごみ			0	0			0	0	
埋め立てごみ			0	0			0	0	
			0	0			0	0	
			0	0			0	0	
一般廃棄物排出量の合計	0	0	0	0	0	0	0	0	
活動規模単位 当たりの 廃棄物排出量	原単位①あたり	0	0	0	-	0	0	0	-
	原単位②あたり	0	0	0	-	0	0	0	-

※活動規模単位当たりの排出量は、実績表1で記入した原単位で総量を割った値を算出しています。

黄色の欄に入力してください。
他の欄は自動計算されます。
※実績表4も同様です

廃棄物：一般廃棄物と産業廃棄物の種別ごとに、
リサイクル廃棄物と焼却又は埋め立て廃棄物の年間の量を入力
単 位：事業所の排出規模に応じて、「トン」から「キロ」などに変更

排出量の把握については、本環境ISOのガイドラインも参考にしてください。

実績表4 産業廃棄物の排出量とリサイクル率

※2年分の実績を記入（新規登録の場合は右側の欄に直近1年分の実績を記入）

※単位は事業所の規模に合わせてご自由に変更ください

期間	令和 年 月～令和 年 月				令和 年 月～令和 年 月			
	① リサイク ル廃棄物	② 焼却又は 埋め立て 廃棄物	③ 合計 (=①+②)	④ リサイク ル率 (=①/③× 100)	① リサイク ル廃棄物	② 焼却又は 埋め立て 廃棄物	③ 合計 (=①+②)	④ リサイク ル率 (=①/③× 100)
単位	トン	トン	トン	%	トン	トン	トン	%
汚泥			0	0			0	0
がれき類			0	0			0	0
ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず			0	0			0	0
金属くず			0	0			0	0
廃プラスチック類			0	0			0	0
廃油			0	0			0	0
廃酸・廃アルカリ			0	0			0	0
			0	0			0	0
			0	0			0	0
産業廃棄物排出量の合計	0	0	0	0	0	0	0	0
<特別管理産業廃棄物> 廃油			0	0			0	0
<特別管理産業廃棄物> 廃酸・廃アルカリ			0	0			0	0
<特別管理産業廃棄物> 特定有害産業廃棄物			0	0			0	0
			0	0			0	0
特定管理産業廃棄物排出量の合計	0	0	0	0	0	0	0	0
産業廃棄物排出量の総合計	0	0	0	0	0	0	0	0
活動規模単位 当たりの 廃棄物排出量	原単位①あたり			-				-
	原単位②あたり			-				-

※活動規模単位当たりの排出量は、実績表1で記入した原単位で総量を割った値を算出しています。

実績表5 資源の利用量

※水または紙のどちらか一方のみの記入でも構いません。

※2年分の実績を記入（新規登録の場合は右側の欄に直近1年分の実績を記入）

期間		令和 年 月～令和 年 月	令和 年 月～令和 年 月
資源の種別		利用量	利用量
水	水道水	<input type="text"/> m ³	<input type="text"/> m ³
	地下水	<input type="text"/> m ³	<input type="text"/> m ³
		<input type="text"/> m ³	<input type="text"/> m ³
	水使用量の合計	<input type="text"/> m ³	<input type="text"/> m ³
	活動規模単位当たりの水使用量	原単位①あたり	<input type="text"/>
原単位②あたり		<input type="text"/>	<input type="text"/>

※活動規模単位当たりの排出量は、実績表1で記入した原単位で総量を割った値を算出しています。

期間		令和 年 月～令和 年 月	令和 年 月～令和 年 月
資源の種別		利用量	利用量
紙	コピー用紙（1枚4gが目安）	<input type="text"/> 枚	<input type="text"/> 枚
	※1枚の重量を（ <input type="text"/> 4 ）gとして換算	<input type="text"/> kg	<input type="text"/> kg
	包装紙	<input type="text"/> 枚	<input type="text"/> 枚
	※1枚の重量を（ <input type="text"/> ）gとして換算	<input type="text"/> kg	<input type="text"/> kg
	その他の紙	<input type="text"/> 枚	<input type="text"/> 枚
	※1枚の重量を（ <input type="text"/> ）gとして換算	<input type="text"/> kg	<input type="text"/> kg
	紙使用量の合計	<input type="text"/> kg	<input type="text"/> kg
活動規模単位当たりの紙使用量	原単位①あたり	<input type="text"/>	<input type="text"/>
	原単位②あたり	<input type="text"/>	<input type="text"/>

黄色の欄に入力してください。

他の欄は自動計算されます。

水道水 ・ 地下水 ： 年間の使用量を入力
 コピー用紙 ・ その他の紙 ： 1枚あたりの重量と年間の使用枚数を入力
 ※初期値は A4 コピー用紙 4 g を目安としています

【事業者版環境ISO用チェック表】
 チェック表1（二酸化炭素排出量の削減に関する取組）

二酸化炭素排出量の削減に関する取組		評価
照明について		
1	空室や昼休憩時など、不要エリア・不要時の消灯を徹底する	
2	照明の間引きや、廊下・窓際の消灯（昼光利用）を行う	
3	照明の消し忘れが多い場所や、あまり使用しない通路等に人感センサーを設置する	
4	照明のカバーを定期的に清掃する	
5	照明を高効率照明（LED等）に交換する	
6	部分消灯を行うため、事務所の照明点滅回路を変更する	
冷凍・空調・断熱について		
7	夏場の室温は28℃、冬場の室温は20℃を目安とする	
8	時期に合わせてクールビズ、ウォームビズに取り組む	
9	不要エリア、不要時の空調を停止する	
10	無理のない範囲で空調の使用時間を短くする（30分前のスイッチオフ等）	
11	エアコンを使用するときはサーキュレーター等を併用し空気を循環させる	
12	エアコンのフィルターや室外機等を定期的に清掃する	
13	エアコンの室外機周辺に物を置かず、夏場は日よけの設置や散水を行う	
14	グリーンカーテンやすだれ、遮熱フィルム、ブラインド等により、時期に合わせて冷暖房効率を高める	
15	冷凍空調機器を定期的に点検する	
16	省エネ型のエアコンを導入する	
17	断熱性能の高い複層ガラスや樹脂サッシ等の導入などにより、建築物の断熱性能の向上に取り組む	
18	屋根への遮熱塗料の塗布や、屋上の緑化により、断熱性を高める	
輸送・移動について		
19	顧客訪問や打合せなどのルート、時間、回数を計画的に行う	
20	車で移動する場合には、相乗りを徹底する	
21	エコドライブの推進体制を作り、組織的に取り組む	
22	車両の点検・整備と燃費の確認を定期的に行う	
23	ノーカーデーを設けるなど、公共交通機関、自転車の利用に努める	
24	電気自動車やハイブリッド自動車など電動車の導入を進める	
25	トラック等による貨物輸送を、一括大量輸送が可能な、最寄りの港や駅からの海上輸送や鉄道輸送に転換する。（モーダルシフト）	
その他の取組		
26	OA機器の節電機能を活用する	
27		
28		
29		
30		
31		
32		
33		
34		
35		
36		
37		
38		
39		
40		
41		
42		
43		
44		
45		
46		
47		
48		
49		
50		

以下の基準で評価し、チェック表1～4の評価欄に記入して下さい。

- すでに取り組んでいる項目 ○
- ある程度取り組んでいるが、さらに取組が必要な項目 △
- 取り組んでいない項目 ×
- 事業所の業務に関連がないと判断できる項目 /

※事業者版 ISO と工場・施設版環境 ISO で様式が異なります。

【工場・施設版環境ISO用チェック表】
 チェック表1（二酸化炭素排出量の削減に関する取組）

二酸化炭素排出量の削減に関する取組		評価
照明について		
1	空室や昼休憩時など、不要エリア・不要時の消灯を徹底する	
2	照明の間引きや、廊下・窓際の消灯（昼光利用）を行う	
3	照明の消し忘れが多い場所や、あまり使用しない通路等に人感センサーを設置する	
4	照明のカバーを定期的に清掃する	
5	照明を高効率照明（LED等）に交換する	
6	部分消灯を行うため、工場や事務所の照明点滅回路を変更する	
7	場所や季節に合わせて適切な照度管理を行う	
冷凍・空調・断熱について		
8	夏場の室温は28℃、冬場の室温は20℃を目安とする	
9	時期に合わせてクールビズ、ウォームビズに取り組む	
10	不要エリア、不要時の空調を停止する	
11	無理のない範囲で空調の使用時間を短くする（30分前のスイッチオフ等）	
12	エアコンを使用するときはサーキュレーター等を併用し空気を循環させる	
13	エアコンのフィルターや室外機等を定期的に清掃する	
14	エアコンの室外機周辺に物を置かず、夏場は日よけの設置や散水を行う	
15	グリーンカーテンやすだれ、遮熱フィルム、ブラインド等により、時期に合わせて冷暖房効率を高める	
16	冷凍空調機器を定期的に点検する	
17	省エネ型のエアコンを導入する	
18	外気導入による負荷を減らすため、換気設備の間欠運転やインバータ化により、外気取り入れ量を調節する	
19	冷凍機の冷水出口温度を高めに設定し、冷凍機やヒートポンプ等の動力を削減する	
20	熱源機の温水出口の温度を低めに設定し、熱源機ヒートポンプ等の動力を削減する	
21	空調機器の一斉の起動を避ける（運転時間を前倒しする、運転時間をフロアごとに時間調整する等）	
22	ビニールカーテンの設置など、空調エリアへの外気侵入を遮断する	
23	発熱機器に対して、局所排気や放熱遮断を行う	
24	断熱性能の高い複層ガラスや樹脂サッシ等の導入などにより、建築物の断熱性能の向上に取り組む	
25	屋根への遮熱塗料の塗布や、屋上の緑化により、断熱性を高める	
26	電気室、サーバー室の空調設定温度が低すぎないかを確認し、見直す	
その他設備機器について		
2	デマンド監視装置を導入のうえ、目標デマンド値に設定し、警報発生時にあらかじめ決めて	
2	以下の基準で評価し、チェック表1～4の評価欄に記入して下さい。	
2	• すでに取り組んでいる項目	○
3	• ある程度取り組んでいるが、さらに取組が必要な項目	△
3	• 取り組んでいない項目	×
3	• 事業所の業務に関連がないと判断できる項目	/
3	※事業者版ISOと工場・施設版環境ISOで様式が異なります。	
3		
3		

(環境行動計画書の例)

(株)〇〇の環境行動計画

令和〇年〇月〇日

■ 取組方針

環境基本理念

株式会社〇〇は、OA機器・システム機器の販売・保守及び事務用品の販売を行っていますが、環境保全に取り組むことが地域社会を構成する企業市民としての責務であることを認識し、住みよい社会と豊かな自然を将来世代に伝えることに貢献します。

環境行動指針

私たちは、当支店の事業活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるために、以下の行動に取り組みます。

- ① 省エネルギーにより、地球温暖化防止に努めます
- ② 自らグリーン製品を使用し、その提案・普及に努めます。
- ③ 廃棄物の削減とリサイクルを進めます
- ④ 資源の有効な利用を図ります

この方針にそって、全ての従業員が高い環境意識をもち、環境に配慮した行動ができるように、環境教育を実施します。また、地域での環境保全活動に積極的に参加できるように、支店内の制度を整備します。

令和〇〇年〇〇月〇〇日

株式会社〇〇
代表取締役 〇〇 〇〇

■ 環境負荷低減の取組

当社では、事業活動に伴う環境負荷を削減するための取組目標を掲げ、目標を達成するための具体的な取組を設定して取り組むこととしています。設定した取組目標と具体的な取組項目は、次の通りです。

目標一1	二酸化炭素の排出量（売上高当たり）を、〇〇年を基準として〇〇年までに〇〇（kg-CO ₂ /百万円）に削減する
具体的な取組	<p>（事務所での取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 室温の管理を徹底する ② エアコンの使用期間中は、毎月1回フィルターを清掃する ③ エアコンを使用しない期間は、動かず、電源を切る <div style="border: 2px solid red; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">二酸化炭素、廃棄物、水、紙、取組推進体制等について それぞれ目標と取組内容を設定してください。</p> <p>※水・紙はいずれかを選択して記入しても構いません。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ④ 車両の点検を定期的に行う ⑤ 車両の使用計画を社内LANに掲示する

目標一2	廃棄物の排出量（売上高当たり）を、〇〇年を基準として〇〇年までに〇〇（トン/百万円）に削減する
具体的な取組	<p>（事務所での取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 廃棄物は、決められたごみ箱（可燃ごみ、不燃ごみ、コピー用紙、パンフレット、封筒、廃プラスチック）に分別して出す ② シュレッダーの使用は機密書類に限定する ③ ファイル、フォルダーなどは繰り返し使用する <p>（商品の仕入れ・販売に関する取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 仕入れ・納入にはできるだけ通い箱を使用する ⑤ 使用済みの段ボール、梱包材、荷造りひもを分別する ⑥ 新しい製品カタログを受け取る際には、旧版を引き取ってもらう

目標一3	コピー用紙の使用量（売上高当たり）を、〇〇年（〇〇kg／百万円）を基準として〇〇年までに〇〇kg／百万円に削減する
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 作成した資料は、パソコン画面上での確認を徹底する ② 社内資料は、両面コピー、縮小コピー、裏紙利用に努める ③ コピー機のコピーボタンを押す前に、必ず設定を確認する ④ 電子メディアの利用によってペーパーレス化を推進する

目標一4	社内の取組体制構築、環境保全に関する地域社会への貢献活動推進
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ① 環境関連のセミナーに参加する ② 毎週、担当者が社内をパトロールして取組状況を確認する ③ 毎月、会社周辺の歩道を清掃する ④ 会社の敷地内の緑化を行う

環境に配慮した活動等の目標と取組内容を設定してください。

■ 環境行動計画の実施体制

この環境行動計画にそって環境保全活動を推進するために、総務課長（環境管理責任者）を委員長とする環境推進委員会を設け、全従業員が「具体的な取組」を実行します。